

海外の畜産物の需給動向

牛肉

米国

2021年第1四半期の牛肉輸出量は韓国・中国向けが前年同期比で増加

フィードロット飼養頭数は堅調に推移、今後は干ばつの影響を注視する必要

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）の「Cattle on Feed」によると、2021年4月のフィードロット導入頭数は前年同月比27.2%増の182万1000頭、出荷頭数は同32.8%増の193万8000頭といずれも大幅な増加となった。その結果、5月のフィードロット飼養頭数は同4.7%増の1172万5000頭となり、10カ月連続で前年同月を上回った（図1）。

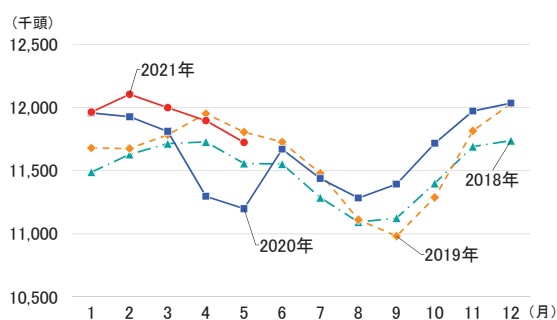
一方で、米国の一部では干ばつに見舞われており、USDAによると全米牛飼養頭数の約36%が干ばつ地域で飼養されている状況にある。また、当該地域では牧草の生育状況も

悪化しており、乾草や粗飼料の価格が上昇している。これらの影響から、21年のフィードロット導入頭数が増え、その結果として、22年のフィードロット導入頭数は減少する可能性も示唆されている。

と畜頭数は前年同月から大幅に増加

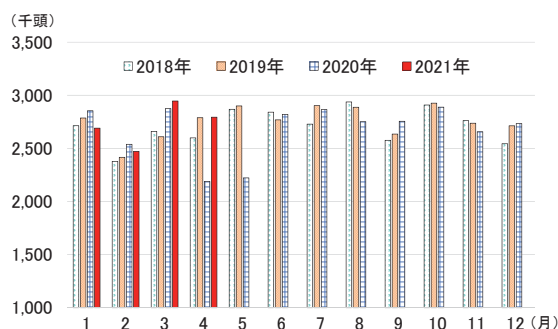
USDA/NASSの「Livestock Slaughter」によると、2021年4月の牛と畜頭数は前年同月比27.6%増の279万3600頭と大幅に増加し、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による影響を受ける前の19年の水準にまで戻した（図2）。21年第1四半期（1～3月）は、食肉処理施設での労働力不足などにより平日の1日当たり平均と畜頭数が前年同期を2000～3000頭下回る状

図1 フィードロット飼養頭数の推移



資料：USDA「Cattle on Feed」
注1：1000頭以上規模のフィードロットが対象。
注2：各月1日時点。

図2 牛と畜頭数の推移



資料：USDA「Livestock Slaughter」
注：連邦検査ベース。

況にあったが、土曜日の処理能力を拡大できたことでこの不足分をほぼ埋め合わせたとUSDAは分析している。

また、今後のと畜頭数については、干ばつの影響で牧草の生育状態が悪化し、飼料費も上昇していることから、21年のと畜のペースは上がると見込んでいる。21年4月のと畜頭数を種類別に見ると、未經産牛が前年同月比31.8%増の90万8800頭と大幅に増加している。これは、干ばつの影響などにより繁殖経営での雌牛留保が難しくなり、出荷・と畜に向けられたものと考えられる。USDAは、このまま牧草地の状態が改善しない場合、結果的に22年の飼養頭数およびと畜頭数は減少すると予想している。

3月の牛肉輸出は中国向けが大幅に増加、輸出量第3位に

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2021年3月の牛肉輸出量は13万6109トン（前年同月比12.3%増）とかなり大きく増加し、過去最多を記録した（表1）。

主要輸出先別に見ると、日本向けが同

12.2%減の3万4345トンと前年同月を下回ったものの、単月実績としては昨年12月以来の首位となった。2位の韓国向けは同9.0%増の3万193トン、4位のメキシコ向けは同1.1%増の1万3013トンと前年同月を上回ったが、5位のカナダ向けは同15.9%減の9654トンと前年同月を下回った。また、中国向けは、1、2月ともに前年同月を大幅に上回って推移しており、3月には同29.9倍の1万9562トンと過去最多となる輸出量を記録し、メキシコとカナダを抜き第3位となった。

21年第1四半期（1～3月）の牛肉輸出量は、前年同期比3.5%増の36万1264トンとなった。日本向けと韓国向けが合わせて輸出シェアのほぼ半分を占めている。また、中国向けは、同15.8倍の4万779トンにまで増加し、輸出シェアは前年同期の0.7%から11.3%へと拡大した。

USDAによると、21年第2四半期および第3四半期の輸出量については、中国向けが引き続き好調に推移し、第4四半期についても同様に推移すると予測している。この結果、

表1 主要輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2020年		2021年		2021年		2021年	
	3月	3月	前年同月比 (増減率)	シェア	(1～3月)	前年同期比 (増減率)	シェア	
日本	39,134	34,345	▲ 12.2%	25.2%	91,146	▲ 11.8%	25.2%	
韓国	27,704	30,193	9.0%	22.2%	87,595	12.9%	24.2%	
中国	655	19,562	2,888.6% (約 29.9 倍)	14.4%	40,779	1,476.0% (約 15.8 倍)	11.3%	
メキシコ	12,867	13,013	1.1%	9.6%	39,437	▲ 13.9%	10.9%	
カナダ	11,474	9,654	▲ 15.9%	7.1%	29,723	▲ 10.4%	8.2%	
台湾	8,078	6,920	▲ 14.3%	5.1%	17,702	▲ 20.3%	4.9%	
香港	5,180	6,747	30.2%	5.0%	17,205	▲ 4.3%	4.8%	
その他	16,079	15,673	▲ 2.5%	11.5%	37,677	▲ 18.5%	10.4%	
合計	121,172	136,109	12.3%	100.0%	361,264	3.5%	100.0%	

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注：枝肉重量ベース。

21年は前年比9.2%増の146万3743トンと見込んでいる。22年は、と畜頭数の減少が予測され、輸出可能な供給量が限られてくることから、21年と同程度となる146万2835トンと見込んでいる。

米国食肉輸出連合会（USMEF）は、21年第1四半期の輸出状況に関し、以下のようにコメントしている。

第1四半期の牛肉の輸出実績は、食肉業界が抱える物流や労働力に関する問題、また、外食産業への規制が続いていることを考慮すると、非常に良いスタートを切ることができた。特に、食肉処理施設での労働力不足により内臓肉などのバラエティミートの供給に制約があった中で、バラエティミートの輸出量が回復したことに勇気づけられた。

中国向けは、同国の第1四半期の牛肉輸入量に占める米国産の割合が3.4%と、前年同期の1%未満から大きく増加した。21年4月には新たに米国の食肉処理施設が対中輸出の認定を受けたことから、今後数カ月間でさらに拡大することが見込まれる。日本向けは、一時的なセーフガードによる関税率の引き上

げの影響もあり、前年同期と比較して減少したものと考えられる。

2021年第1四半期の牛肉輸入量は減少、豪州とNZからの輸入量減少が影響

USDA/ERSによると、2021年3月の牛肉輸入量は前年同月比8.6%減の12万3902トンとなった（表2）。また、21年第1四半期（1～3月）の輸入量は、前年同期比10.0%減の31万5758トンとなった。これは、オセアニア（豪州およびニュージーランド）からの輸入量の減少が要因であるとしている。豪州では20年の干ばつの影響で牛飼養頭数が減少しており、牛群再構築のために未經産牛と経産牛が留保される傾向にあり、豪州からの輸入は依然として低調に推移している。また、ニュージーランドでは、降雨による良好な放牧環境が肉牛の出荷を抑制していることに加えて、中国などの他の輸出先市場との競合も相まって、輸入量が減少したものと分析している。

表2 主要輸入先別牛肉輸入量の推移

（単位：トン）

	2020年 3月	2021年 3月	前年同月比 (増減率)	シェア	2021年 (1～3月)		
					前年同期比 (増減率)	シェア	
カナダ	31,892	32,482	1.9%	26.2%	90,684	5.7%	28.7%
メキシコ	25,753	25,443	▲1.2%	20.5%	65,284	▲7.0%	20.7%
ニュージーランド	28,954	25,392	▲12.3%	20.5%	57,565	▲2.0%	18.2%
豪州	25,766	13,510	▲47.6%	10.9%	37,035	▲51.7%	11.7%
ブラジル	4,178	9,895	136.8%	8.0%	22,885	100.3%	7.2%
ニカラグア	9,889	8,361	▲15.4%	6.7%	18,758	▲26.6%	5.9%
その他	9,185	8,818	▲4.0%	7.1%	23,548	121.4%	7.5%
合計	135,617	123,902	▲8.6%	100.0%	315,758	▲10.0%	100.0%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注：枝肉重量ベース。

（調査情報部 岡田 卓也）

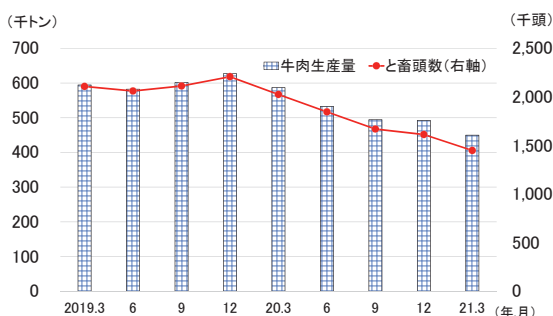
豪州

牛群再構築が進展、牛肉生産量・輸出量は引き続き減少

と畜頭数、牛肉生産量はともに減少傾向で推移

豪州統計局（ABS）によると、2021年3月の牛と畜頭数は144万8400頭（前年同月比28.5%減）と大幅に減少した（図3）。これに伴い牛肉生産量は44万9800トン（同23.3%減）と大幅に減少した。先の干ばつによる牛群の縮小とその後の気候条件の回復による牛の保留の動きが続いていることから、と畜頭数は減少傾向で推移している。

図3 牛肉生産量およびと畜頭数の推移



資料：ABS

注：生産量は枝肉重量ベース。

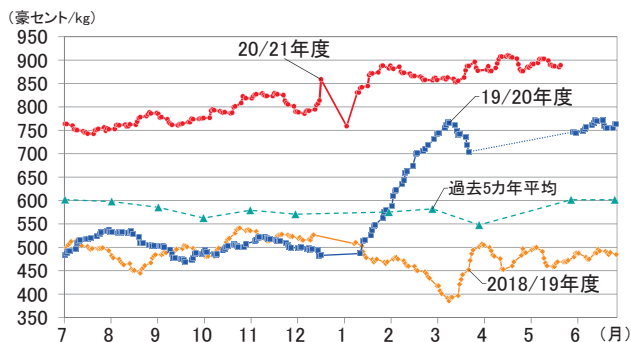
また、豪州フィードロット協会（ALFA）によると、同月の牛と畜頭数のうち、穀物肥育牛が66万5536頭（45.9%）と半数近くを占めており（注）、直近20年間で最も高い割合となっている。

（注）海外情報「2021年3月末のフィードロット飼養頭数、13期連続で100万頭を上回る（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-cu/joho01b_000047.html）を参照されたい。

北部を中心に牛群再構築が進展、価格は引き続き堅調との見方

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、先の干ばつ以降の良好な天候による牧草の生育状況を反映し、牧草肥育業者からの牛の需要が依然として高いことから高値で推移している。2021年5月25日時点の同価格は1キログラム当たり889.00豪セント（773円：1豪ドル=87円）となっている（図4）。

図4 EYCI価格の推移



資料：MLA

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

注3：2020年3月26日～6月1日の間は、新型コロナウイルス感染症の影響でEYCI価格の集計を実施していない。

この状況についてMLAは、主産地であるクイーンズランド州の家畜市場での取引頭数の減少を要因として挙げている。同州では夏から秋（21年初頭）にかけてまとまった降雨があったため放牧環境は良好とされており、牛群再構築に向けて農家で牛の保留意欲が特に高まっていると分析している。

今後のEYCI価格についてさまざまな分析

が行われているが、牛群再構築の進展に伴い、本年後半には出荷頭数が上向くとされるものの、同800豪セント台半ばを下回る可能性は低いとの見方もある。

またMLAは、「Industry projections 2021-April update」において、四半期に一度の牛肉生産量などの見通しを公表した（表3）。

表3 牛肉生産量などの見通し

項目	2019年	2020年	2021年 (今回見込値)		2022年 (今回予測値)	2023年 (今回予測値)
				前年比 (増減率)		
牛飼養頭数（千頭）	26,187	24,621	25,916	5.3%	27,146	27,963
成牛と畜頭数（千頭）	8,482	7,171	6,400	▲10.8%	6,800	7,350
牛肉生産量（千トン）	2,405	2,111	1,928	▲8.7%	2,049	2,183
1頭当たり枝肉重量（kg）	283.6	294.8	301.3	2.2%	301.4	297.0
牛肉輸出量（千トン）	1,229	1,039	918	▲11.6%	1,007	1,075
生体牛輸出頭数（千頭）	1,304	1,010	750	▲25.7%	840	950

資料：MLA「Industry projections 2021-April update」

注1：牛肉生産量は枝肉重量ベース。牛肉輸出量は船積重量ベース。

注2：子牛および子牛肉を除く。

注3：2021年は見込値。2022、23年は予測値。

これによると、牛飼養頭数は牛群再構築の進展に伴う増加傾向が今後も続くこと見込まれることから、21年は2591万6000頭（前年比5.3%増）とやや増加し、23年には2796万3000頭に達すると予測している。

また、最近の豪州気象庁（BOM）の予報では降雨量が少なく乾燥するとされているものの、直近数カ月のと畜頭数の減少傾向と、農家の牛の保留意欲が高いことを理由に、21年のと畜頭数は640万頭（同10.8%減）とかなりの程度減少し、それに伴い牛肉生産量も192万8000トン（同8.7%減）とかなりの程度減少すると見込んでいる。

なお、牛飼養頭数の増加傾向から、23年にはと畜頭数が735万頭、牛肉生産量が

218万3000トンにそれぞれ回復すると予測している。

21年の牛肉輸出量は、生産量の減少に伴い91万8000トン（同11.6%減）とかなり大きく減少すると見込んでいるが、23年は牛肉生産量の回復に伴い、107万5000トンに回復すると予測している。

生体牛輸出頭数については、豪州での牛の価格高騰に伴い海外の輸入業者の利益が圧迫されていることや、これまでの干ばつにより豪州北部の牛飼養頭数が減少していることから、21年は75万頭（同25.7%減）と大幅な減少を見込んでいるが、23年は95万頭に回復すると予測している。

牛肉輸出量、韓国向けが伸びるも日本向けがトップを堅持

豪州農業・水・環境省(DAWE)によると、2021年4月の牛肉輸出量は、と畜頭数の減少などから7万2502トン(前年同月比21.6%減)と大幅に減少した(表4)。

輸出先別に見ると、日本向けは前年同月比22.5%減の1万8476トンと大幅に減少したが、依然として第1位を堅持している。

また、同月の日本向け輸出量の構成比を見

ると、穀物肥育牛肉が53.9%、牧草肥育牛肉が46.1%となっている(図5)。

米国向けや中国向けなども減少する中、韓国向けは1万4470トン(前年同月比13.9%増)とかなり大きく増加し、日本に次ぐ第2位に浮上している。この要因についてMLAは、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、韓国国内でオンラインショッピングなどを通じた牛肉需要が増加したためとみており、豪州にとって安定した重要な輸出先であるとしている。

表4 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位: トン)

	2020年 4月	2021年 4月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1~4月)	前年同期比 (増減率)
日本	23,850	18,476	▲22.5%	69,025	▲25.5%
韓国	12,704	14,470	13.9%	50,683	4.0%
米国	15,536	11,989	▲22.8%	41,510	▲38.9%
中国	23,788	10,820	▲54.5%	46,593	▲41.7%
東南アジア	9,331	8,569	▲8.2%	32,427	▲9.6%
中東	2,061	2,322	12.7%	10,258	14.2%
EU	567	761	34.3%	2,854	▲16.8%
その他	4,641	5,094	9.8%	19,012	▲10.3%
輸出量合計	92,476	72,502	▲21.6%	272,361	▲24.1%

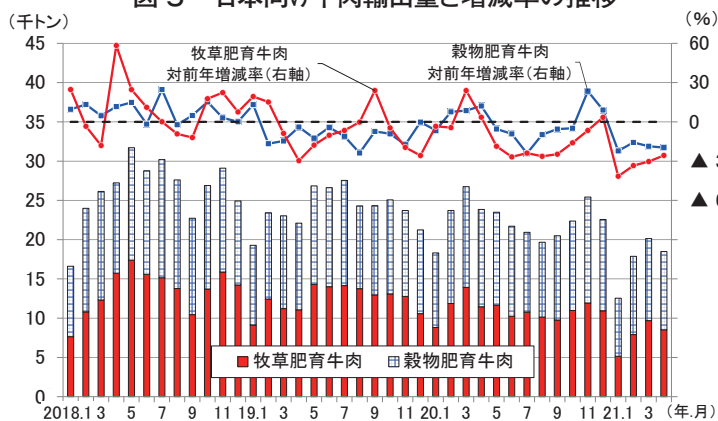
資料: DAWE

注1: 船積重量ベース。

注2: 東南アジアは、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの合計。

注3: 中東は、イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦を構成する七つの首長国のうち四つの首長国(アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ)の合計。

図5 日本向け牛肉輸出量と増減率の推移



資料: MLA

注: 船積重量ベース。

(調査情報部 国際調査グループ)

中国

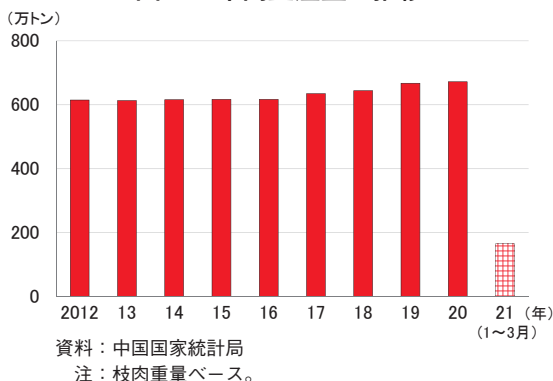
牛肉価格は高値で推移、輸入量も増加基調

2020年の牛肉生産量はわずかに増加

中国国家统计局によると、2020年の牛肉生産量は前年比0.8%増の672万トンとなった(図6)。同年第1四半期(1~3月期)は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により前年同期を下回って推移したが、中国政府が生産・流通業者に対して業務の再開を奨励したことなどから持ち直し、年間累計ではわずかに増加した。また、21年第1四半期の牛肉生産量は165万トン(前年同期比5.8%増)と増加基調で推移している。中国農業農村部が本年4月に公表した「中国農業展望報告(2021~30)」によると、今後、牛肉生産量の増加速度は緩やかになり、21年は684万トン、10年後の30年は790万トンと見込まれている(注)。

(注) 海外情報「中国農業展望報告(2021-2030)を公表(牛肉編)」
(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002969.html)を参照されたい。

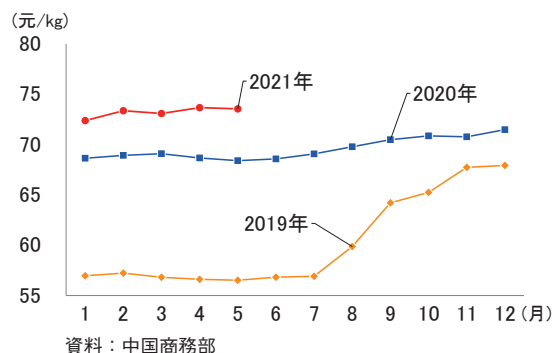
図6 牛肉生産量の推移



牛肉卸売価格は高値で推移

2020年の牛肉消費量は、COVID-19の影響により外食需要が減少したものの、家庭内消費の増加や中国国内でのアフリカ豚熱発生による豚肉価格上昇を背景とした代替需要などから、前年比6.1%増の884万トンとなった。こうした牛肉需要の伸びに対し生産量が追いつかないことなどから、牛肉卸売価格は引き続き高値で推移している(図7)。

図7 牛肉卸売価格の推移



「中国農業展望報告(2021~30)」によると、21年は同国内でのCOVID-19の収束に伴い、抑制されていた外食需要が回復することなどから、牛肉消費量は前年比1.7%増の899万トンに達すると見込まれている。このため、都市部を中心に今後も牛肉卸売価格は高値で推移するとみられる。

なお、現地関係者によると、牛肉輸入量の増加に伴い、消費人口の少ない地方都市では市場に相当量の牛肉が供給され始めていることなどから、21年3月以降、価格はわずかに低下傾向にあるとされている。

牛肉輸入量は引き続き増加、輸入先の多角化も進展

国内の供給不足を満たすため、牛肉輸入量は年々増加傾向にあり、2020年の冷凍牛肉の輸入量は前年比27.6%増の207万136トンとなった（表5）。輸入先別の特徴的な動きを見ると、ニュージーランドや豪州などからの輸入量が減少する中で、米国やブラジルなどからの輸入量の増加がみられた。このほか、同年には新たにロシア、ラトビア、ポーランドからの輸入を開始するとともに、チリ、コスタリカ、ボリビアといった中南米諸国からの輸入も増加させるなど、需要の増加に応

えるべく、輸入先の多角化が図られている。

冷凍牛肉に比べて絶対量は少ないものの、国内の需要増加に伴い冷蔵牛肉の輸入量も増加を続けている（表6）。最近の動きに注目すると、冷凍牛肉と同様、米国からの輸入が突出して増加しているほか、アルゼンチンやウルグアイなど南米からの輸入の伸びが目立っている。

「中国農業展望報告（2021～30）」によると、国内の供給不足解消のために輸入は継続して行われるが、中国国内の牛肉供給能力が着実に向上することなどから輸入の伸びは鈍化し、21年には215万トン、30年には240万トンになると見込まれている。

表5 冷凍牛肉の輸入先別輸入量の推移

（単位：万トン）

	2017年	2018年	2019年	2020年	前年比 (増減率)	2021年	前年同期比
						(1～3月)	(増減率)
ブラジル	19.8	32.3	40.0	84.8	112.3% (約2.1倍)	24.2	33.1%
アルゼンチン	8.6	18.0	37.6	48.1	28.1%	13.9	18.1%
ウルグアイ	19.6	21.9	28.6	22.8	▲20.1%	8.5	46.1%
豪州	11.0	16.1	28.0	22.0	▲21.2%	3.9	▲49.2%
ニュージーランド	7.9	10.8	20.5	16.1	▲21.6%	5.3	27.8%
米国	0.2	0.7	0.9	2.5	173.8% (約2.7倍)	1.7	547.3% (約6.5倍)
チリ	0.4	0.6	1.5	2.1	43.3%	0.4	145.7% (約2.5倍)
その他	1.4	2.1	5.3	8.5	62.0%	2.7	31.0%
合計	68.9	102.3	162.2	207.0	27.6%	60.5	20.3%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコード0202。

表 6 冷蔵牛肉の輸入先別輸入量の推移

(単位：トン)

	2017年	2018年	2019年	2020年	前年比 (増減率)	2021年	前年同期比 (増減率)
						(1~3月)	
豪州	5,912	12,575	27,517	33,366	21.3%	5,658	▲ 30.2%
ニュージーランド	379	3,172	9,229	8,937	▲ 3.2%	2,387	35.4%
米国	268	236	856	3,535	313.0% (約 4.1 倍)	2,312	1,276.2% (約 13.8 倍)
アルゼンチン	—	—	67	1,498	2,135.8% (約 22.4 倍)	763	231.7% (約 3.3 倍)
ウルグアイ	—	—	77	1,312	1,603.9% (約 17.0 倍)	948	887.5% (約 9.9 倍)
その他	—	6	106	88	▲ 17.0%	31	▲ 13.9%
合計	6,558	15,990	37,852	48,737	28.8%	12,100	16.3%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコード0201。

(調査情報部 阿南 小有里)

豚 肉

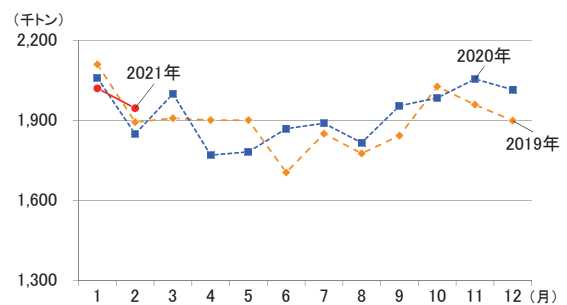
E U

アジア地域からの需要によりスペインの輸出量が大幅に増加

2月の豚肉生産量は前年同月比5.2%増

欧州委員会によると、2021年2月の豚肉生産量（EU27カ国）は、前年同月比5.2%増の194万5660トンとなった(図8)。また、と畜頭数は同4.1%増の2030万頭、1頭当たり枝肉重量は同1.1%増の95.8キログラムとなった。また、同月の生産量を国別に見ると、スペイン(同4.3%増)、ドイツ(同1.2%増)、ポーランド(同5.6%増)、デンマーク(同13.9%増)、オランダ(同8.7%増)、イタリア(同10.1%増)と、前年同月並みとなったフランスを除き主要生産国ではいずれも増産となった(表7)。

図 8 豚肉月別生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

2月の生産量が二桁の伸びとなったデンマークについては、従来、ドイツやポーランドを中心とするEU域内に子豚や生体豚を輸出していた。しかし、2020年9月にドイツの野生イノシシにおいてアフリカ豚熱の感染が確認されたことから、主要輸出先であった

表7 主要生産国別豚肉生産量の推移

(単位：千トン)

	2020年 2月	2021年 2月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1～2月)	
				前年同期比 (増減率)	
スペイン	429	447	4.3%	906	1.1%
ドイツ	412	417	1.2%	851	▲ 4.0%
フランス	176	176	0.0%	365	▲ 3.2%
ポーランド	148	156	5.6%	327	5.5%
デンマーク	131	149	13.9%	304	16.1%
オランダ	131	142	8.7%	289	2.4%
イタリア	100	110	10.1%	223	4.2%
その他	322	348	7.9%	700	2.9%
合計	1,849	1,946	5.2%	3,966	1.5%

資料：欧州委員会「Eurostat」
注：枝肉重量ベース。

中国を含むアジア諸国を中心に、ドイツ産豚肉の一時輸入停止措置が取られているため、デンマークから生体豚を輸入して豚肉に処理していたドイツの一部施設では減産するなど(注1)、デンマークからドイツ向けの生体豚の輸出が減少している。こうした状況の中、デンマークでは2020年12月時点の子豚、肥育豚飼養頭数が前年を上回り(注2)、今回の生産量の増加につながっている。

(注1) 海外情報「デンニッシュ・クラウン社、ドイツの豚肉処理工場の生産能力を削減(EU)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002942.html)を参照されたい。

(注2) 『畜産の情報』2021年5月号「2020年の豚総飼養頭数は、前年比2.1%増」(https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_001628.html)を参照されたい。

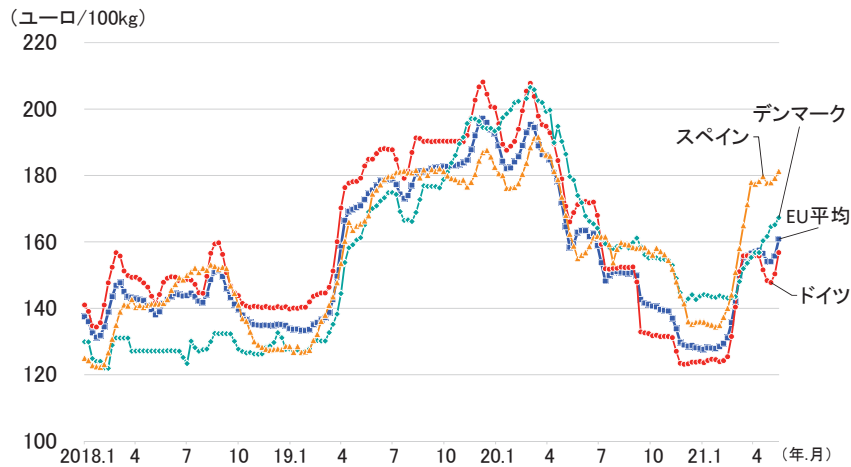
豚枝肉卸売価格は、上昇基調

欧州委員会によると、2021年4月の豚枝肉卸売価格(EU27カ国)は、前年同月比13.4%安の100キログラム当たり156.5ユーロ(2万1128円：1ユーロ=135円)となり、2020年5月以降、12カ月連続で前年同月を下回っている。

一方、同価格の動向を週ごとに見ると、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大による需要低迷やドイツでのアフリカ豚熱の感染確認を受けて下落傾向で推移したものの、2月1日の週以降は上昇基調で推移し、5月17日は前年同月同週比0.9%高の同160.85ユーロ(2万1715円)と約1年ぶりに前年同期を上回った(図9)。

こうした上昇の要因として、EU域内の多くの国でCOVID-19に伴う規制などが徐々に緩和し、フードサービス業界の営業再開からEU域内での豚肉の需要が増加していることに加え、アフリカ豚熱の感染が確認されていないEU諸国からの中国向けなどの輸出需要が強いことが挙げられる。

図9 国別豚枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」
 注1：EU参考価格（CLASS E）。
 注2：デンマークの2020年2月17日はデータなし。

2月の豚肉輸出量は前年同月比大幅増

欧州委員会によると、2021年2月のEU域外への豚肉（生鮮・冷蔵・冷凍）輸出量（EU27カ国）は、前年同月比39.6%増の36万5474トンとなった（表8）。豚肉輸出量は、2019年以降、27カ月連続で前年同月を上回って推移している。

輸出先別に見ると、日本向けが唯一減少（同27.8%減）した一方で、中国向け（同55.9%増）、フィリピン向け（同3.4倍）、韓

国向け（同2.1%増）、香港向け（同2.5倍）、豪州向け（同4.0%増）、米国向け（同47.9%増）が軒並み増加した。特に、フィリピン向けは、同国におけるアフリカ豚熱発生に伴う豚肉供給不足を背景に大きく増加しており、輸入関税が引き下げられたこと^{（注3）}もあり、引き続き輸出量の増加が見込まれている。

（注3）海外情報「豚肉の供給不足から輸入関税を大幅引き下げ（フィリピン）」（https://www.alic.go.jp/chosa-cu/joho01b_000046.html）を参照されたい。

表8 輸出先別豚肉輸出量の推移（EU域外向け）

（単位：千トン）

	2020年 2月	2021年 2月	前年同月比 （増減率）	2021年 （1～2月）	前年同期比 （増減率）
中国	144	224	55.9%	459	48.1%
日本	28	20	▲27.8%	38	▲28.0%
フィリピン	4	15	241.6% （約3.4倍）	23	195.4% （約3.0倍）
韓国	14	14	2.1%	26	▲13.9%
香港	4	9	153.7% （約2.5倍）	23	152.1% （約2.5倍）
豪州	6	6	4.0%	11	▲13.6%
米国	4	6	47.9%	10	30.0%
その他	59	72	21.4%	131	10.3%
合計	262	365	39.6%	721	31.2%

資料：欧州委員会「Eurostat」
 注1：製品重量ベース。
 注2：HSコードは0203。

また、輸出国別に見ると、EU最大の輸出国であるスペイン（同88.8%増）、第2位のデンマーク（同27.3%増）をはじめ、ドイツを除く主要輸出国のいずれも増加した(表9)。前述の通り、ドイツはアフリカ豚熱の感染

確認に伴う中国などにおける一時輸入停止措置の影響もあり、輸出量は大幅に減少している一方、その穴埋めをするかのようにスペインの輸出量の増加が目立っている。

表9 輸出国別豚肉輸出量の推移 (EU域外向け)

(単位：千トン)

	2020年 2月	2021年 2月	2021年 (1～2月)		
			前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
スペイン	78	147	88.8%	294	90.5%
デンマーク	51	65	27.3%	124	17.2%
オランダ	32	49	53.2%	102	42.7%
ドイツ	57	28	▲ 51.3%	58	▲ 52.8%
フランス	13	22	61.0%	43	60.6%
ポーランド	7	15	112.3%	25	63.6%
その他	24	41	68.7%	76	41.9%
合計	262	365	39.6%	721	31.2%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコードは0203。

(調査情報部 小林 智也)

メキシコ

国内外でメキシコ産豚肉の需要が高まり、2021年の生産量・輸出量ともに増加見込み

豚肉生産量は増加傾向で推移、2021年も増加見込み

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は3月16日、2021年のメキシコの豚肉需給見通しを発表した。これによると、本年の豚肉生産量は149万5000トン（前年比3.0%増）と見込まれている（表10）。増加の要因としてUSDA/FASは、メキシコでの新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響に伴う所得の減少などから牛肉より安価な豚

肉の需要が高まっていることや、輸出先での豚肉需要を背景とした輸出の伸びを挙げている。また、米ドルに対してペソ安で推移する為替相場から、米国などからの豚肉輸入が抑制されることも豚肉の生産を促すものとしている。メキシコ養豚業界はこうした国内外からの需要を満たすため、インテグレーション化の推進、技術投資、飼養衛生管理などの強化を継続しており、同国の豚肉生産は成長を続けている。

表 10 メキシコの豚肉需給の見通し

(単位：千頭、千トン)

	2019年	2020年	2021年
と畜頭数	18,500	19,000	19,700
生産量	1,408	1,451	1,495
輸入量	985	945	975
供給量	2,393	2,396	2,470
輸出量	234	344	360
消費量	2,159	2,052	2,110

資料：USDA Gain Report

注1：2021年は予測値。

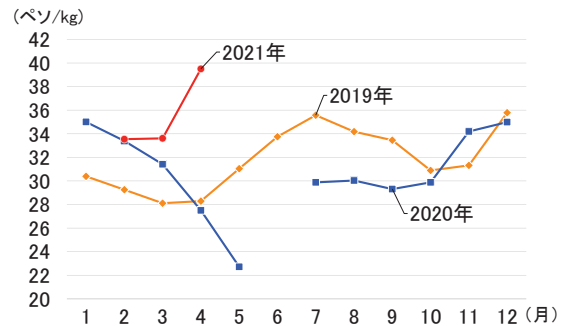
注2：枝肉重量ベース。

豚肉消費量の回復に伴い生体豚価格も上昇

USDA/FASによると、2020年のCOVID-19の拡大を受けたメキシコ政府の対応（国民への自宅待機の呼びかけ）などにより、外食産業は大きな影響を受け、豚肉の一人当たりの消費量が減少し、20年の消費量は205万2000トン（前年比5.0%減）と前年から10万トンを超える落ち込みを見せた（表10）。一方、21年は、外食事業者がオンライン販売に取り組むなど消費者の需要に対応したことで、211万トン（同2.8%増）まで回復すると見込まれている。

国家情報市場統合システム（SNIIM）によると、生体豚の価格は消費需要の低下などから20年5月には1キログラム当たり22.72ペソ（148円：1ペソ=6.50円）と大幅に低下したが、同年7月以降は回復傾向にあり、中国向けの強い輸出需要から21年4月には1キログラム当たり39.50ペソ（257円、前年同月比43.6%高）と大幅に上昇している（図10）。

図 10 生体豚価格の推移



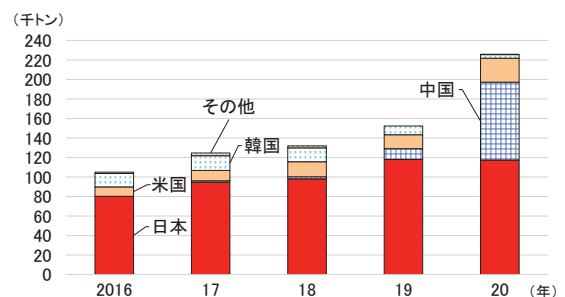
資料：SNIIM

注：2020年6月、2021年1月は未公表。

中国および米国の豚肉需要から輸出量は増加

近年、メキシコの豚肉輸出量は日本向けを主体に増加傾向にあるが、2020年は、特に中国向けや米国向けの増加を受けて前年比48.2%増と大幅に増加した（図11）。また、月別に見ると、中国向けの増加を背景に20

図 11 国別豚肉輸出量の推移



資料：「Global Trade Atlas」

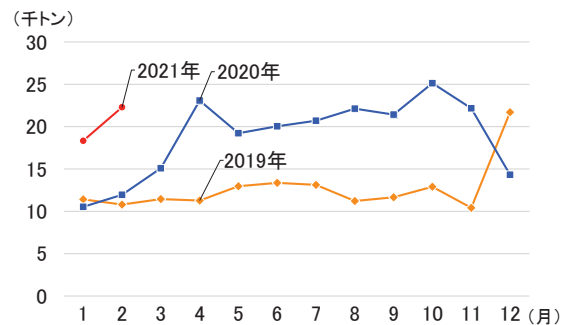
注1：製品重量ベース。

注2：HSコードは0203。

年初旬から増加基調で推移している（図12）。

USDA/FASによると、日本、中国、韓国、ベトナム、シンガポールなどのアジアの市場からのメキシコ産豚肉の輸入需要が高かったことから、20年はメキシコ国内の食肉処理施設が輸出向けを拡大して対応したとされている。また、21年の輸出量については、20年に見られたような中国向けの急増などによる爆発的な増加は見込めないものの、引き続き日本向けや中国向けなどの輸出量増加が見込まれている。

図12 月別豚肉輸出量の推移



資料：「Global Trade Atlas」
注1：製品重量ベース。
注2：HSコードは0203。

(調査情報部 岡田 卓也)

鶏 肉

米 国

鶏肉卸売価格、上昇傾向で推移

2021年4月の鶏肉生産量は、わずかに増加

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2020年1～12月の米国の鶏肉生産量は2022万3000トン（前年比1.5%増）と前年をわずかに上回った（表11）。また、処理羽数は92億3000万羽（同0.1%増）、生体重量は1羽当たり2.91キログラム（同1.4%増）となり、生体重量は微増傾向にある。

21年1～4月の生産量は661万8000トン（前年同期比1.7%減）、処理羽数は30億1700万羽（同2.7%減）と前年同期からわずかに減少した。

一方、21年4月の生産量は167万7000トン（前年同月比2.7%増）とわずかに増加しており、処理羽数は7億6200万羽（同1.3%増）であった。

表11 鶏肉生産量の推移

	2020年 (1～12月)		2021年 4月		2021年 (1～4月)	
		前年比 (増減率)		前年同月比 (増減率)		前年同期比 (増減率)
生産量 (千トン)	20,223	1.5%	1,677	2.7%	6,618	▲ 1.7%
処理羽数 (百万羽)	9,230	0.1%	762	1.3%	3,017	▲ 2.7%
生体重量 (キログラム/羽)	2.91	1.4%	2.92	1.3%	2.91	0.9%

資料：USDA [Livestock & Meat Domestic Data]
注1：連邦食肉検査済みのもの。
注2：生産量は可食処理ベース（骨付き）。

2021年4月の鶏肉卸売価格、大幅に上昇

USDA/ERSによると、2021年4月の鶏肉卸売価格は1ポンド当たり1.02米ドル（1キログラム当たり250円：1米ドル=111円）、前年同月比89.6%高となり、大幅に上昇した（図13）。2月に25カ月ぶりに前年同月を上回ってから、価格は上昇傾向で推移している。

USDA/ERSが本年5月18日に公表した「Livestock, Dairy, and Poultry Outlook」によると、鶏肉卸売価格上昇の背景には、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が沈静化する中、経済活動の再開に伴う外食需要の増加や、冷凍在庫の減少などさまざまな要因があるとしている。中でも冷凍在庫は、持ち帰り需要の高い手羽先などが高水準で消費されていることなどの理由から取り崩され、8カ月連続で前年同月を下回って推移している（図14）。このため短期的な課題として、肉食需要に加えて増加する外食需要に対する鶏肉の供給余力を挙げている。

図13 鶏肉の卸売価格の推移

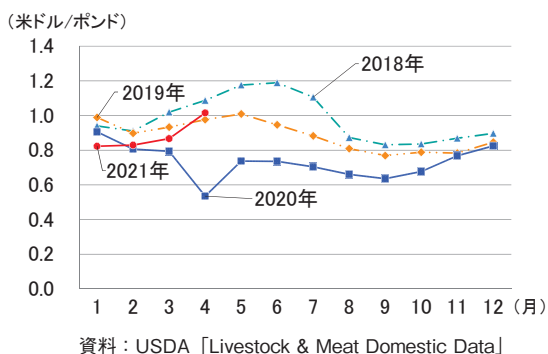
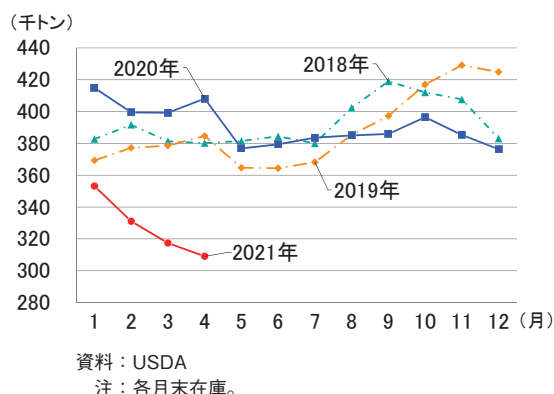


図14 鶏肉冷凍在庫量の推移



この結果、21年の鶏肉卸売価格は、緩やかな生産量の伸びが見込まれるものの、高い需要を背景に、20年平均より27%高になると予測している。また、22年は、飼料コストが上昇する見込みから生産量の伸びが抑制され、価格は引き続き高止まりすると予測している。

1～3月の鶏肉輸出量、前年同期比0.2%減

USDA/ERSによると、2021年3月の米国の鶏肉輸出量は30万トン（前年同月比2.8%減）とわずかに減少した（表12）。輸出先別に見ると、首位となるメキシコ向けが引き続き好調（同6.4%増）であったが、上位輸出先の中でも大きく増えた国と減らした国・地域が混在し、キューバ向け（同114.4%増）やフィリピン向け（同279.5%増）などの増加分が、台湾向け（同40.4%減）やベトナム向け（同48.2%減）などの減少分を相殺する形となった。

なお、21年1～3月の鶏肉輸出量は、84万1000トン（前年同期比0.2%減）と前年並みとなった。

表 12 輸出先別鶏肉輸出量の推移

(単位：千トン)

	2020年 3月	2021年 3月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1～3月)	前年同期比 (増減率)
メキシコ	65	70	6.4%	180	▲2.9%
キューバ	15	33	114.4% (約2.1倍)	79	106.6% (約2.1倍)
フィリピン	6	22	279.5% (約3.8倍)	50	84.2%
中国	13	17	30.3%	51	136.4% (約2.4倍)
台湾	23	14	▲40.4%	44	▲34.2%
グアテマラ	12	13	12.6%	34	9.4%
カナダ	12	13	3.3%	35	1.2%
アンゴラ	5	10	82.7%	42	291.3% (約3.9倍)
ベトナム	15	8	▲48.2%	31	▲49.1%
南アフリカ共和国	15	8	▲49.4%	21	▲35.2%
その他	126	94	▲25.9%	274	▲18.0%
合計	309	300	▲2.8%	841	▲0.2%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注1：製品重量ベース。

注2：もみじ（鶏足）を除く。

(調査情報部 上村 照子)

ブラジル

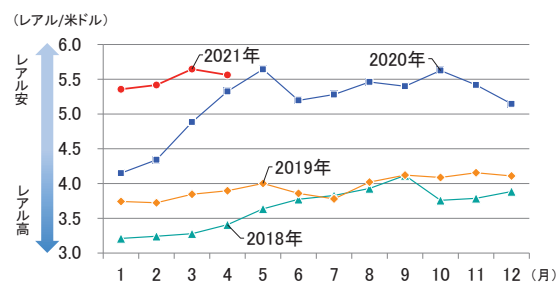
ブロイラー生産コスト、飼料穀物高を背景に上昇

1～4月の鶏肉輸出量、前年同期比3.5%増

ブラジル経済省貿易事務局（SECEX）によると、2021年1～4月の鶏肉輸出量は、前年同期比3.5%増の131万678トンと前年をやや上回った(表13)。同国の鶏肉輸出は、飼料価格高により生産コストが上昇しているものの、為替相場は米ドルに対するレアル安が続いていることから、有利な状況にあるとみられる(図15)。また、フランスなど他の輸出国において高病原性鳥インフルエンザが発生していることも、同国の鶏肉輸出に有利に働くとみられている。輸出先別に見ると、最大の中国向けは、同8.9%減の20万3091トンと前年をかなりの程度下回った。しかしながら、同国ではアフリカ豚熱の発生に伴う

代替需要から依然としてブラジル産鶏肉への引き合いが強いとみられており、21年に入ってから毎月5万トン程度の輸出が続いている。中国に次ぐ輸出先であるサウジアラビア向けは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響から20年前半に減少が見られたものの、その後回復し同9.4%増の15万9738トンとなった。また、日本向けは比較

図 15 為替相場(米ドルに対するレアル)の推移



資料：三菱UFJリサーチ&コンサルティング「現地参考為替相場」

注：各月の平均Sellingレート推移。

表 13 輸出先別鶏肉輸出量および輸出額の推移

区分	2020年 (1～4月)			2021年 (1～4月)			前年同期比 (増減率)		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量	輸出額	単価
中国	222,824	457,019	2,051	203,091	374,100	1,842	▲ 8.9%	▲ 18.1%	▲ 10.2%
サウジアラビア	146,017	231,058	1,582	159,738	273,651	1,713	9.4%	18.4%	8.3%
日本	131,230	246,549	1,878	128,969	233,325	1,809	▲ 1.7%	▲ 5.4%	▲ 3.7%
南アフリカ共和国	79,535	38,688	486	104,490	61,472	588	31.4%	58.9%	20.9%
アラブ首長国連邦	105,029	161,256	1,535	91,079	143,138	1,571	▲ 13.3%	▲ 11.2%	2.4%
フィリピン	29,221	21,580	738	42,971	35,480	825	47.1%	64.4%	11.8%
イエメン	35,536	47,058	1,324	38,994	57,290	1,469	9.7%	21.7%	10.9%
香港	46,806	74,103	1,583	35,852	64,254	1,792	▲ 23.4%	▲ 13.3%	13.2%
その他	469,970	681,788	1,450	505,494	700,926	1,386	7.6%	2.8%	▲ 4.4%
合計	1,266,168	1,959,099	1,547	1,310,678	1,943,636	1,482	3.5%	▲ 0.8%	▲ 4.2%

資料：SECEX

注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

注2：製品重量ベース。

的安定しており同1.7%減の12万8969トンとなった。

ブロイラー生産コスト指数、1年間で120ポイント超上昇

ブラジル農牧研究公社(EMBRAPA)養鶏・養豚センター(CIAS)によると、最大の鶏肉生産州であるパラナ州のブロイラー生産コスト指数(2010年1月の生産コストを100とした指数)は、上昇基調で推移している。同指数は、2018年4月から19年9月ごろまで220ポイント前後で推移していたが、その後上昇傾向で推移し、21年4月には386.3ポイント(前年同月比123.3ポイント増)に達している(図16)。これは、鶏肉生産コストの約7割を占める飼料費が、国内外の堅調な飼料穀物需要を背景として引き続き上昇しているためである。ブロイラー用飼料の主原料となるトウモロコシの卸売価格(マットグロッソ州)は、19年10月ごろから上昇傾向で推移し、21年4月には60キログラム当たり86.6レアル(1819円：1レアル=21円)と

なり前年同月比67.2%高と大幅に上昇した(図17)。

国内での飼料穀物価格高の対策としてSECEXは4月19日、20年10月に導入していたメルコスール以外からのトウモロコシな

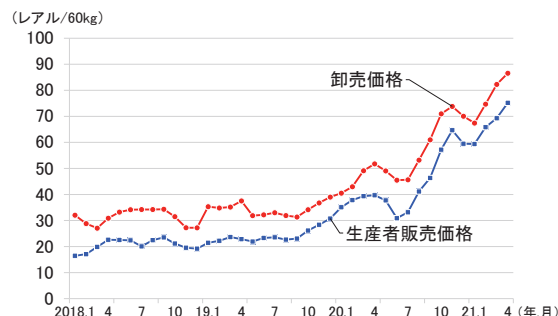
図 16 パラナ州のブロイラー生産コスト指数の推移



資料：EMBRAPA

注：2010年1月の生産コストを100ポイントとしている。

図 17 マットグロッソ州のトウモロコシ相場の推移



資料：ブラジル国家食糧供給公社 (CONAB)

どの輸入税免除措置を4月以降も継続し、21年末まで延長することを決定した。

鶏肉卸売価格は上昇傾向を維持し、高値で推移

サンパウロ大学農学部応用経済研究所(CEPEA)によると、ブラジルの鶏肉卸売価格は、同国内でCOVID-19が拡大し始めた2020年3～5月ごろにかけて下落したが、比較的安価な食肉として鶏肉需要が堅調であることなどを背景に上昇に転じ、その後も上昇傾向で推移している(図18)。サンパウロ州の鶏肉卸売価格(名目価格)は、21年5月

11日に1キログラム当たり7.1リアル(約149円)と統計が開始された04年以降の最高値を記録し、その後も高値で推移している。

図18 サンパウロ州の鶏肉卸売価格(丸鶏・冷蔵)の推移



(調査情報部 井田 俊二)

牛乳・乳製品

米 国

乳用経産牛飼養頭数と生乳生産量は引き続き増加、乳製品の輸出も好調

乳価は上昇傾向、それに伴い経産牛飼養頭数と生乳生産量も増加

米国農務省全国農業統計局(USDA/NASS)の「Agricultural Prices」によると、全米平均総合乳価は比較的堅調に推移しており、クラス別に見てもそれぞれ緩やかに上昇傾向にある(図19、20)。乳価の上昇に後

押しされる形で、2019年夏以降、酪農家の増頭意欲が高まっているとみられ、20年7月以降、飼養頭数の増加が顕著になっている。

USDA/NASSの「Milk Production」によると21年4月の乳用経産牛飼養頭数は3月から1万6000頭増加し、前年同月比1.2%増の949万頭となった(図21)。

図19 全米平均総合乳価の推移

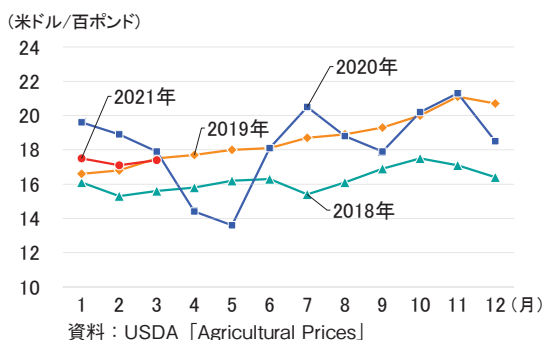
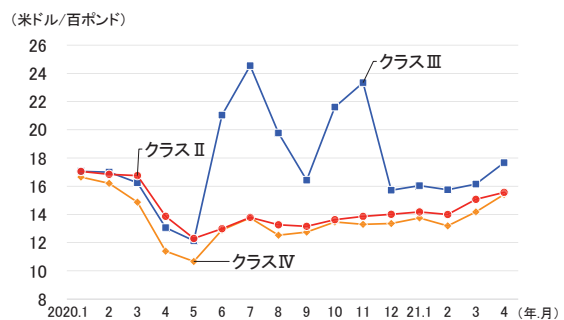
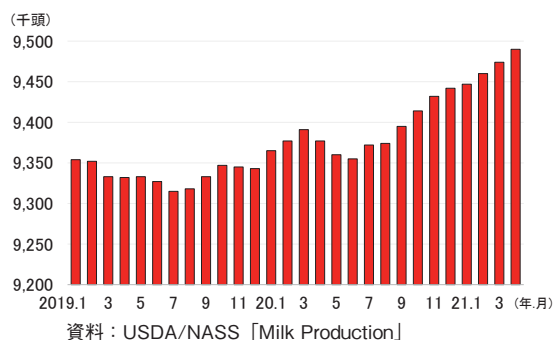


図20 クラス別乳価の推移



注：クラスIIはクリーム、アイスクリーム、ヨーグルト向け、クラスIIIはチーズ向け、クラスIVはバター、脱脂粉乳向け。

図 21 乳用経産牛飼養頭数の推移

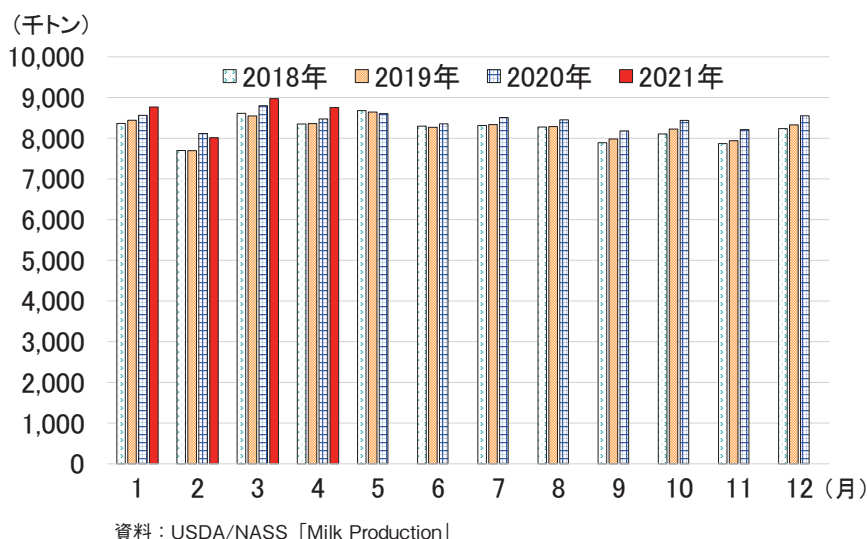


また、21年1～3月の生乳生産量の推移を見ると、前年同月比の増加率が緩やかになってきたが、乳用経産牛飼養頭数の増加に

伴い、21年4月の生乳生産量は同3.3%増の875万2000トンとなった(図22)。トウモロコシなど飼料穀物価格が上向く中で、米国西部での干ばつから酪農主産地のカリフォルニア州では粗飼料への影響も懸念されているが、同月の1頭当たりの全米平均乳量が922キログラムに達したことも生乳生産の増加要因である。

今後、飼料穀物相場の動向によっては飼料コストのさらなる増加も見込まれており、飼養頭数と生乳生産量への影響が危惧される。

図 22 生乳生産量の推移



乳製品輸出量は好調に増加

米国農務省経済調査局 (USDA/ERS) の「Dairy Data」によると、2021年3月の乳製品の輸出量は全体的に増加した。

品目別に見ると、バターは前年同月比170.6%増の4200トン、脱脂粉乳は同38.9%増の8万6500トン、チーズは同10.6%増の3万6900トン、乾燥ホエイは同37.6%増の2万3900トン、WPC (タンパ

ク質濃縮ホエイ) は同37.0%増の1万3400トンと増加した(表14、図23、24)。特にバターの輸出量が大きく増加している背景については、昨年7月に発効された米国-メキシコ-カナダ協定 (USMCA) の下、カナダ向けが増加していること、昨年以來低迷を続けていた原油価格が本年に入り上昇し、乳製品需要が回復したサウジアラビア、バーレーン、エジプトなどの中東・北アフリカ向けが増加していることが挙げられる。

21年第1四半期で見ても乳製品輸出は非常に好調であったとの見方が強い。これは20年末まで続いた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響によるコンテナの滞留に起因する輸出の停滞が緩和されたこと

も要因の一つであるが、米ドル安で推移する為替相場などを背景に米国産乳製品に対する世界的な需要の高まりも要因として挙げられる。

表 14 主要乳製品輸出量の推移

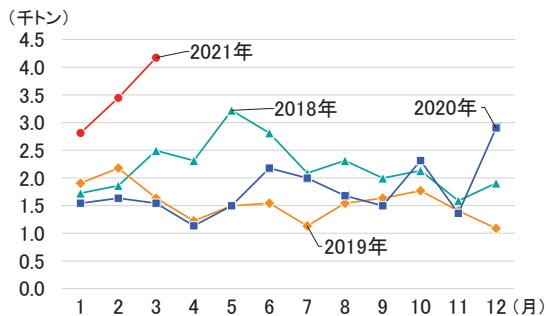
(単位：千トン)

	2020年 3月	2021年 3月	前年同月比 (増減率)	2021年	前年同期比 (増減率)
				(1～3月)	
バター	1.5	4.2	170.6% (約2.7倍)	10.4	121.2% (約2.2倍)
脱脂粉乳	62.3	86.5	38.9%	221.0	18.6%
チーズ	33.4	36.9	10.6%	92.4	0.0%
乾燥ホエイ	17.4	23.9	37.6%	60.6	31.5%
WPC	9.8	13.4	37.0%	37.8	20.2%
乳糖	36.2	36.2	0.0%	87.4	▲10.3%

資料：USDA「Dairy Data」

注：製品重量ベース。

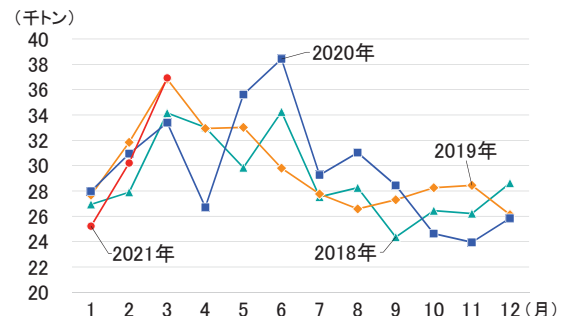
図 23 バター輸出量の推移



資料：USDA「Dairy Data」

注：製品重量ベース。

図 24 チーズ輸出量の推移



資料：USDA「Dairy Data」

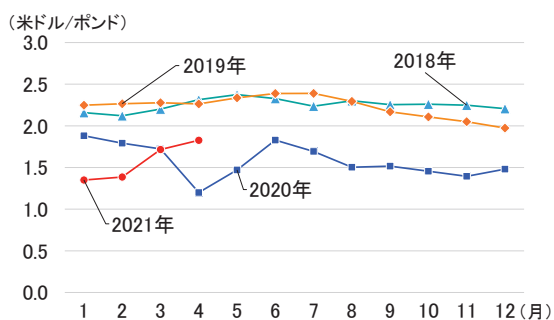
注：製品重量ベース。

また、4月末現在、米国産乳製品の最大の輸出先の一つである隣国のメキシコでは深刻な干ばつが続いている。現時点ではメキシコの生乳生産量に影響は見られないが、今後の状況によっては飼料価格の高騰から生乳生産量の減少も危惧される。メキシコでは、COVID-19の影響から経済が回復しつつある中で脱脂粉乳を中心に米国産乳製品に対する需要は高まっており、引き続き米国産乳製品の輸出拡大の可能性も見込まれている。

米国国内需要の高まりにより乳製品卸売価格が上昇

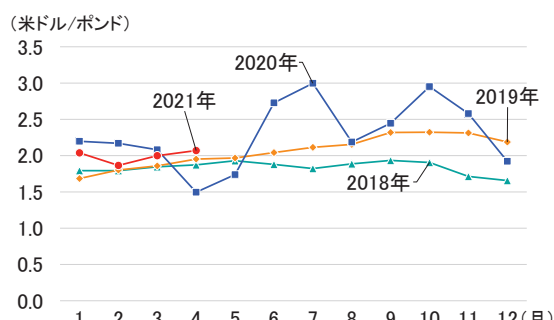
USDAの「DAIRY MARKET NEWS」によると、報告されているすべての乳製品について、2021年4月の卸売価格は前月から上昇した。特にバターの卸売価格の上昇が顕著で、チーズも上昇している（図25、26）。これは、COVID-19により自粛生活が余儀なくされる中で家庭内消費の増加に伴い小売

図 25 バターの卸売価格の推移



資料：USDA「DAIRY MARKET NEWS」
注：シカゴ・マーカンタイル取引所（CME）の現物価格（グレードAA）。

図 26 チーズの卸売価格の推移



資料：USDA「DAIRY MARKET NEWS」
注：40ポンドブロックのチェダーチーズ、ウィスコンシン地区のFOB価格。

売上高が高止まりしており、さらに、ワクチン接種が進むにつれ、COVID-19により低迷していた外食産業の売上高が急増するなど、米国内の需要が拡大していることが要因とみられている。

なお、米国国勢調査局（USCB）によると、21年4月の米国民の外食・飲食店支出は前年同月と比較して119.8%増加した。一方で、COVID-19による家庭内消費の増加に伴う小売売上高の増加も好調を維持している。また、USCBの調査では、COVID-19の収束後も家庭内での食事の機会を維持するとの意向が大半を占めている。これらのことから、国内需要は今後も堅調に推移する見通しであり、USDAは大半の乳製品の卸売価格が上昇すると予測している。ただし、バターについては、需要は比較的堅調に推移するものの供給量の増加により価格上昇が抑制される見通しとしている。

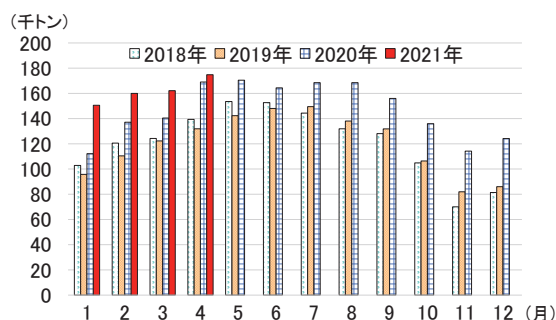
バター在庫量は増加、チーズ在庫量は減少

USDA/NASSの「Cold Storage」によると、4月のバターの在庫量は3月から1万2700トン増加し、前年同月比3.3%増の17万4800トンとなった（図27）。バターの生

産量も増加している中で、COVID-19による各種規制や制限の緩和から外食・飲食店に客足が戻りつつあるものの、バター消費量の大きい高級レストラン需要の回復の遅れが大きな要因とみられている。

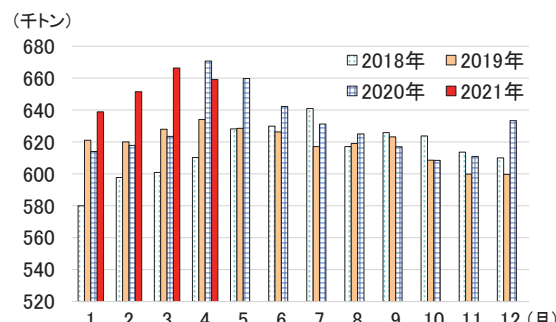
4月のチーズの在庫量は3月から7200トン減少し、前年同月比1.8%減の65万9100トンとなった（図28）。バターと同様に生乳

図 27 バター在庫量の推移



資料：USDA「Cold Storage」
注：各月月末時点。

図 28 チーズ在庫量の推移



資料：USDA「Cold Storage」
注：各月月末時点。

生産量の増加から家庭内消費や輸出増を背景にチーズ生産量も増加している。しかし、特にファストフード店での利用が多いCHEDARチーズやピザ用として多量に消費されるモツ

ツアレチーズなどを中心に外食からの需要が急増したことが、在庫量を減少させた要因とみられている。

(調査情報部 岡田 卓也)

E U

2021年第1四半期のチーズの輸出量は前年同期比増

3月の生乳出荷量は、前年同月をわずかに上回る

欧州委員会によると、2021年3月の生乳出荷量（EU27カ国）は前年同月をわずかに上回る1277万2030トン（前年同月比0.5%増）となった（表15）。

3月の出荷量を国別に見ると、ポーランド（同1.7%増）、イタリア（同1.5%増）、アイ

ルランド（同13.5%増）、ベルギー（同0.5%増）が前年同月を上回ったものの、ドイツ（同1.1%減）、フランス（同1.4%減）、オランダ（同0.7%減）など主要酪農生産国の上位3カ国ではいずれも前年同月を下回った。また、21年第1四半期（1～3月）の生乳出荷量は前年同期比1.3%減の3542万8350トンとなった（図29）。

表 15 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：千トン)

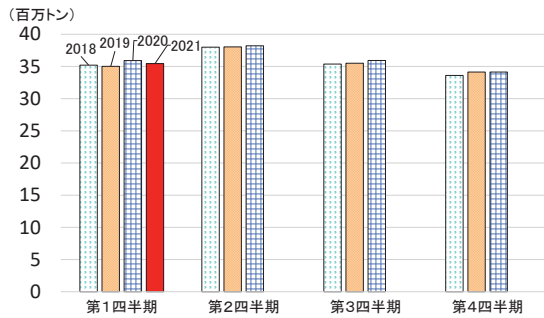
	2020年 3月	2021年 3月	2021年 (1～3月)		
			前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)	
ドイツ	2,849	2,817	▲ 1.1%	8,047	▲ 2.8%
フランス	2,233	2,201	▲ 1.4%	6,273	▲ 3.5%
オランダ	1,223	1,215	▲ 0.7%	3,484	▲ 2.4%
ポーランド	1,079	1,098	1.7%	3,112	▲ 0.4%
イタリア	1,069	1,085	1.5%	3,144	2.2%
アイルランド	747	848	13.5%	1,391	9.5%
スペイン	664	660	▲ 0.6%	1,861	▲ 1.5%
デンマーク	482	482	0.0%	1,389	▲ 1.7%
ベルギー	386	388	0.5%	1,105	▲ 1.2%
その他	1,970	1,979	0.4%	5,622	▲ 0.8%
合計	12,703	12,772	0.5%	35,428	▲ 1.3%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：速報値ベース。

注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

図 29 生乳出荷量の推移



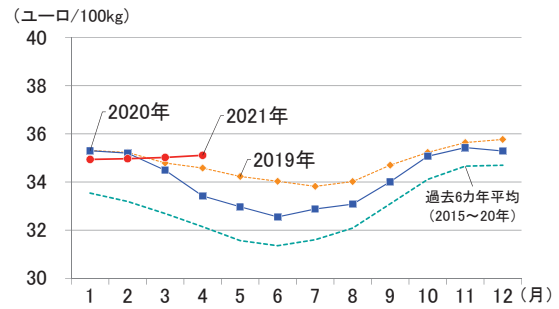
資料：欧州委員会「Eurostat」
注1：速報値。
注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

なお、欧州委員会が3月30日に公表した農畜産物の短期的需給見通しにおいては、第2四半期以降の生乳生産量は前年を上回って推移すると予測されており、通年では前年比1%増が見込まれている。また、春から夏にかけて天候が良好に推移し高品質の牧草を得られれば、上昇する飼料コストの懸念を打ち消すことが見込まれるとしている。

生乳取引価格は引き続き上昇傾向

欧州委員会によると、EUの平均生乳取引価格は、世界的な乳製品需要とEU域内消費に支えられ、昨秋以降上昇傾向で推移している。また、例年であれば、生乳出荷量の増加に伴い3月以降の同価格は下落傾向で推移するが、2021年はバターや脱脂粉乳などの国際相場上昇に伴い上昇傾向で推移している。4月の生乳取引価格（推定値）は、100キログラム当たり35.11ユーロ（4740円：1ユーロ=135円）と前年同月比5.1%高となった（図30）。今後の生乳取引価格の動向については、生乳生産量が前年を上回ると見込まれる中で、EU域内外からの乳製品需要の動きが大きなカギとなっている。

図 30 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」
注1：直近月は推定値。
注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

中国向け乳製品輸出は引き続き好調

欧州委員会によると、2021年第1四半期（1～3月）の英国を除くEU域外向けの乳製品輸出量は、チーズが前年同期比5.0%増の23万3898トン、脱脂粉乳が同4.6%増の20万1351トン、全粉乳が同1.2%増の7万1750トンといずれも前年同期を上回った一方で、バターは同12.6%減の4万5844トンと前年同期を下回った（表16）。

チーズの輸出量は、日本などからの需要が拡大しており、多くの主要輸出先で前年同期を上回った一方、米国向けは前年同期を下回った。これは、米国とEUとの間では、航空大手への補助金をめぐると対立から互いに報復的な追加関税を課しており、米国がEU産チーズをその対象の一つとしていたことが主な要因とされる。しかし、21年3月に米国とEUとの間で追加関税措置を4カ月間停止することが合意されたため、今後の輸出量に動きが出てくるとみられている。

なお、中国向けの乳製品輸出は引き続き好調であり、脱脂粉乳、全粉乳、バターいずれも前年同期を上回っている。

表 16 主な乳製品別輸出货量（英国を除く）の推移

（単位：千トン）

輸出先	脱脂粉乳			輸出先	チーズ			輸出先	全粉乳			輸出先	バター		
	2020年 (1～3月)	2021年 (1～3月)	前年同期比 (増減率)		2020年 (1～3月)	2021年 (1～3月)	前年同期比 (増減率)		2020年 (1～3月)	2021年 (1～3月)	前年同期比 (増減率)		2020年 (1～3月)	2021年 (1～3月)	前年同期比 (増減率)
中国	25	26	4.5%	日本	25	28	14.1%	オマーン	11	15	41.2%	米国	8	7	▲8.0%
アルジェリア	33	23	▲31.2%	米国	30	26	▲15.9%	ナイジェリア	5	4	▲6.8%	中国	2	5	132.0%
インドネシア	9	18	86.6%	スイス	16	19	15.3%	中国	3	4	22.2%	サウジアラビア	5	3	▲54.2%
エジプト	15	14	▲8.9%	サウジアラビア	11	13	14.5%	UAE	2	3	25.1%	韓国	2	2	▲3.1%
イエメン	8	12	49.0%	韓国	14	13	▲12.4%	アルジェリア	4	3	▲32.1%	台湾	1	2	17.2%
その他	101	109	7.3%	その他	126	136	8.0%	その他	46	43	▲7.2%	その他	33	27	▲18.9%
合計 (英国を除く)	192	201	4.6%	合計 (英国を除く)	223	234	5.0%	合計 (英国を除く)	71	72	1.2%	合計 (英国を除く)	52	46	▲12.6%

資料：欧州委員会「Milk market observatory」

注：製品重量ベース。

（調査情報部 小林 智也）

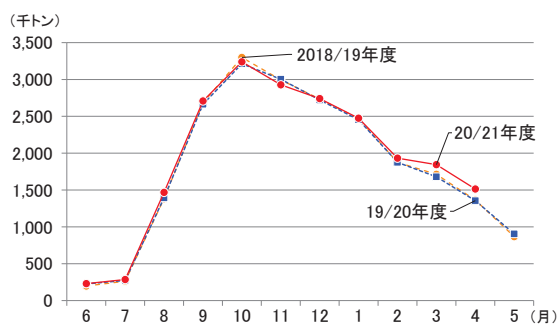
N Z

生乳生産は前年を上回り、乳製品輸出も増加

4月の生乳生産量、前年同月からかなり大きく増加

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2021年4月の生乳生産量は151万4000トン（前年同月比11.7%増）と前年同月をかなり大きく上回り、2020/21年度（6月～翌5月）の累計も前年同期比2.4%増で推移している（図31）。現地報道によると、酪農主産地である北島は降雨も多く、牧草の生育も良好なことから、例年であれば5月に終了する搾乳期間を延長する農家が多いとさ

図 31 生乳生産量の推移



資料：DCANZ

注：年度は6月～翌5月。

れている。このため、5月および年度累計の生乳生産量はそのまま増加基調が続くとみられ、6月から始まる新年度も条件の良い状態で開始できるとされている。

中国向け輸出货量が増加するも輸出総量は減少

ニュージーランド統計局（Statistics NZ）によると、2021年4月の乳製品主要4品目（脱脂粉乳、全粉乳、バターおよびバターオイル、チーズ）の輸出货量は、チーズ以外の品目で前年同月を下回った（表17、図32）。これは、主要輸出先である中国国内での新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による外出規制が大幅に緩和され、外食需要などが回復してきた一方で、国際的な物流の混乱によるコンテナ不足などで輸出が停滞したことによるとみられている。

品目別に見ると、脱脂粉乳は2万1288トン（前年同月比27.3%減）と5カ月連続で減少した。主要輸出先である中国向けが

表 17 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

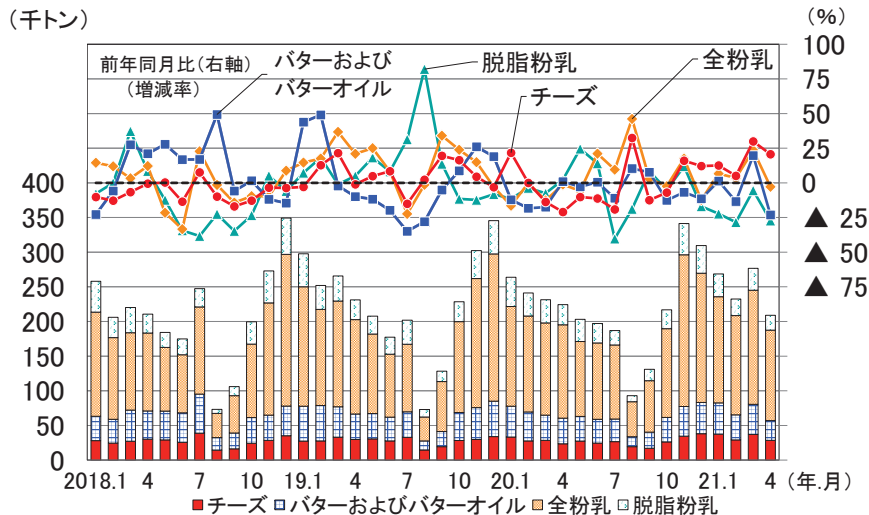
品目	2020年 4月	2021年 4月	前年同月比 (増減率)	2020/21年度 (7月～翌4月)	
				2020/21年度 (7月～翌4月)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	29,276	21,288	▲ 27.3%	267,663	▲ 15.3%
全粉乳	134,550	130,707	▲ 2.9%	1,249,817	▲ 2.7%
バターおよび バターオイル	37,047	28,476	▲ 23.1%	346,903	▲ 5.8%
チーズ	23,544	28,420	20.7%	293,910	8.1%

資料：Statistics NZ

注1：製品重量ベース。

注2：年度は7月～翌6月。

図32 乳製品輸出量および前年同月比(増減率)の推移



資料：Statistics NZ

注：製品重量ベース。

6946トン（同8.7%増）とかなりの程度増加したものの、マレーシア向け、フィリピン向けがそれぞれ大幅に減少した。

全粉乳は、13万707トン（同2.9%減）と前年同月をわずかに下回った。主要輸出先である中国向けが6万1302トン（同25.0%増）と大幅に増加したものの、アラブ首長国連邦向け、アルジェリア向けがそれぞれ大幅に減少した。

バターおよびバターオイルも、2万8476トン（同23.1%減）と前年同月を大幅に下回った。中国向けが8317トン（同11.3%増）、日本向けが601トン（同51.7%増）と増加

したものの、サウジアラビア向けなどが大幅に減少した。

一方、チーズは、2万8420トン（同20.7%増）と6カ月連続で前年同月を上回った。主要輸出先である中国向けが7174トン（同約3.6倍）と大幅に増加したことが寄与し、全体でも大幅に増加した。

GDT、5月も大きな動きはなし

2021年5月18日に開催されたグローバルデーリートレード（GDT：乳製品の国際価格の指標の一つであるフォンテラ社主催の電子オークション。月2回開催）の1トン当た

り平均取引価格は、前回（5月4日）に続き、大きな動きはなかった。（表18、図33）。

現地報道によると、脱脂粉乳は東南アジアやオセアニア地域で前月に引き続き需要が減少したものの、応札の大部分を占める北アジア^(注)の需要が堅調であるため、取引価格は前回比0.4%高の1トン当たり38万3000円にとどまった。全粉乳は、取引数量が増加したにもかかわらず、中国からの応札が多いことで取引価格は同0.2%高の同45万8000円とわずかに上昇した。バターについては、北アジアからの応札が増加したものの、同2.1%安の同54万7000円となった。これは、供給者側であるNZ北島での生乳生産量の増加が要因とされている。また、チーズは、東

南アジアから多くの応札があり、同1.1%高の48万円となった。これは、応札に比べ取引数量が少なかったためとされている。

このように堅調な国際価格を受けてNZ最大の乳業メーカーであるフォンテラ社は5月26日、2021/22年度（6月～翌5月）の生産者乳価の支払見込みを、乳固形分1キログラム当たり7.25～8.75NZドル（587～709円：1NZドル=81円）に設定すると発表した。これは、今年度（20/21年度）の初期生産者乳価であった同5.4～6.9NZドル（437～559円）よりも約3割高い設定となっている。

（注） ニュージーランド外務貿易省は、中国、日本、香港、韓国、台湾を北アジアとしている。

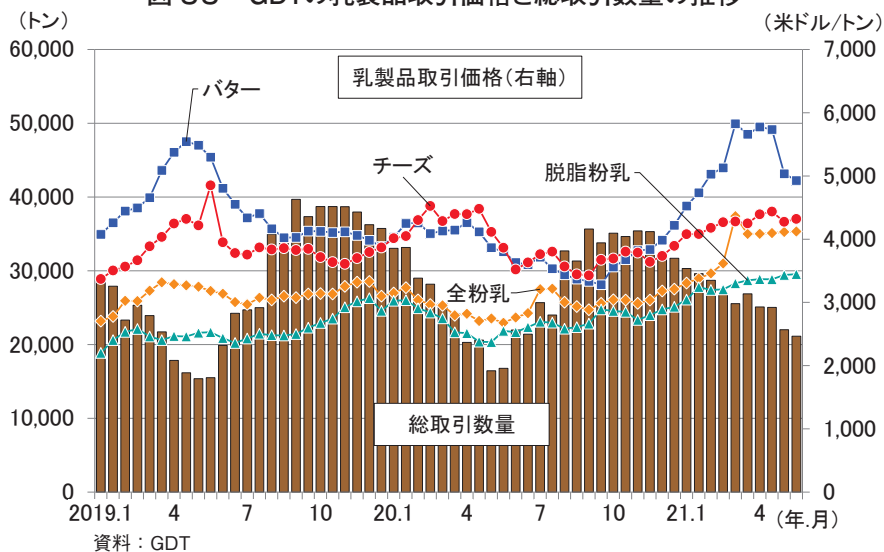
表 18 GDT乳製品取引価格（2021年5月18日開催）

（単位：米ドル/トン、万円/トン）

品目	価格		前年比 (騰落率)	前回比 (騰落率)
	米ドル	万円		
脱脂粉乳	3,447	38.3	35.2%	0.4%
全粉乳	4,123	45.8	54.0%	0.2%
バター	4,929	54.7	29.6%	▲2.1%
チーズ	4,321	48.0	11.8%	1.1%

資料：GDT
注1：1米ドル=111円として計算。
注2：前は5月4日に開催。

図 33 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT

（調査情報部 寺西 梨衣）

飼料穀物

トウモロコシ

2021/22年度の世界のトウモロコシ生産量、やや増加する見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2021年5月12日、2021/22年度最初の世界のトウモロコシ需給予測値を公表した（表19）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は11億8985万トン（前年度比5.4%増）とやや増加が見込まれている。国別に見るとブラジル（1億1800万トン、同15.7%増）やウクライナ（3750万トン、同23.8%増）、中国（2億6800万トン、同2.8%増）での記録的な生産増が予測され、米国（3億8076万トン、同5.7%増）やアルゼンチン（5100万トン、同8.5%増）でも過去最高水準に近い生産が見込まれている。

輸出量は、飼料用の需要の高まりから世界全体で1億9747万トン（同5.7%増）とやや増加が見込まれている。国別に見るとブラジル（同22.9%増）とウクライナ（同32.6%増）で大幅な増加が見込まれるもの

の、米国はこれら輸出国との競合により大きな減少が見込まれている。

輸入量は、世界全体で1億8951万トン（同3.1%増）とやや増加が見込まれている。国別に見ると、主要輸入国である中国の輸入量は2600万トンと前年度から変わらないものの、引き続き高水準で推移すると見込まれている。

消費量は、供給量の増加や経済の回復を受けて、飼料用のみならずその他の用途での需要も高まることから、世界全体で11億8108万トン（同2.8%増）とわずかな増加が見込まれている。国別に見ると、消費大国である米国（同1.8%増）や中国（同1.7%増）に加え、ブラジル（同3.5%増）などの増加が見込まれている。

期末在庫量は、米国とブラジルが次年度へ持ち越す在庫量を増やすことで、2億9230万トン（同3.1%増）とやや増加が見込まれている。

表 19 主要国のトウモロコシの需給見通し (2021年 5月12日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

国名	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度	
			(5月予測)	前年度比 (増減率)
米国				
期首在庫	56.41	48.76	31.93	▲ 34.5%
生産量	345.96	360.25	380.76	5.7%
輸入量	1.06	0.64	0.64	—
消費量	309.51	307.23	312.82	1.8%
輸出量	45.17	70.49	62.23	▲ 11.7%
期末在庫	48.76	31.93	38.28	19.9%
アルゼンチン				
期首在庫	2.37	3.62	2.12	▲ 41.4%
生産量	51.00	47.00	51.00	8.5%
輸入量	0.00	0.01	0.01	—
消費量	13.50	14.50	14.50	—
輸出量	36.25	34.00	36.00	5.9%
期末在庫	3.62	2.12	2.63	24.1%
ブラジル				
期首在庫	5.31	5.23	5.23	—
生産量	102.00	102.00	118.00	15.7%
輸入量	1.65	3.50	1.70	▲ 51.4%
消費量	68.50	70.50	73.00	3.5%
輸出量	35.23	35.00	43.00	22.9%
期末在庫	5.23	5.23	8.93	70.7%
ウクライナ				
期首在庫	0.89	1.48	0.89	▲ 39.9%
生産量	35.89	30.30	37.50	23.8%
輸入量	0.03	0.02	0.02	—
消費量	6.40	7.90	6.80	▲ 13.9%
輸出量	28.93	23.00	30.50	32.6%
期末在庫	1.48	0.89	1.11	24.7%
中国				
期首在庫	210.16	200.53	198.18	▲ 1.2%
生産量	260.78	260.67	268.00	2.8%
輸入量	7.60	26.00	26.00	—
消費量	278.00	289.00	294.00	1.7%
輸出量	0.01	0.02	0.02	—
期末在庫	200.53	198.18	198.16	前年度並
世界計				
期首在庫	322.13	304.48	283.53	▲ 6.9%
生産量	1,117.16	1,128.46	1,189.85	5.4%
輸入量	167.59	183.90	189.51	3.1%
消費量	1,134.81	1,149.41	1,181.08	2.8%
輸出量	172.46	186.83	197.47	5.7%
期末在庫	304.48	283.53	292.30	3.1%

資料：USDA

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/中国、ウクライナ：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

2021/22年度の米国トウモロコシ期末在庫率、10%台に上昇する見込み

USDA/WAOBは2021年5月12日、2021/22年度（9月～翌8月）最初となる米国の主要農作物需給予測値を公表した。このうち、同国のトウモロコシ需給見通しは次の通りである（表20）。

生産量は、作付面積と単収の増加を受けて149億9000万ブッシェル（3億8076万トン^{（注）}、前年度比5.7%増）とやや増加が見込まれている。

消費量は、食品・種子・その他工業向け（エタノール向けを含む）の需要が増すことで、123億1500万ブッシェル（3億1281万トン、同1.8%増）と見込まれている。

輸出量は、ロシア産やウクライナ産との競合によって米国産のシェアが縮小し、24億5000万ブッシェル（6223万トン、同11.7

%減）と記録的な輸出量となった前年度からかなり大きな減少が見込まれている。

期末在庫量は、生産量が増加する一方、輸出量が減少することから、15億700万ブッシェル（3828万トン、同19.9%増）と大幅な増加が見込まれている。その結果、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は10.2%（同1.7ポイント増）とわずかに回復するものの、2016/17～19/20年度の平均値を下回ると見込まれている。

また、生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり5.70米ドル（633円。1キログラム当たり24.9円：1米ドル＝111円）と前年度から大幅な上昇が見込まれている。

（注） 1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

表 20 米国のトウモロコシの需給見通し（2021年5月12日米国農務省公表）

区分	—単位—	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度		
				(5月予測)	参考(換算値)	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	89.7	90.8	91.1	36.9 (百万ヘクタール)	0.3%
収穫面積	(百万エーカー)	81.3	82.5	83.5	33.8 (百万ヘクタール)	1.2%
単収	(ブッシェル/エーカー)	167.5	172.0	179.5	11.3 (トン/ヘクタール)	4.4%
生産量	(百万ブッシェル)	13,620	14,182	14,990	380.76 (百万トン)	5.7%
輸入量	(百万ブッシェル)	42	25	25	0.64 (百万トン)	—
期首在庫	(百万ブッシェル)	2,221	1,919	1,257	31.93 (百万トン)	▲ 34.5%
総供給量	(百万ブッシェル)	15,883	16,127	16,272	413.33 (百万トン)	0.9%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,185	12,095	12,315	312.81 (百万トン)	1.8%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,897	5,700	5,700	144.79 (百万トン)	—
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,287	6,395	6,615	168.03 (百万トン)	3.4%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	4,857	4,975	5,200	132.09 (百万トン)	4.5%
輸出量	(百万ブッシェル)	1,778	2,775	2,450	62.23 (百万トン)	▲ 11.7%
総消費量	(百万ブッシェル)	13,963	14,870	14,765	375.05 (百万トン)	▲ 0.7%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,919	1,257	1,507	38.28 (百万トン)	19.9%
期末在庫率	(%)	13.7	8.5	10.2		1.7ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	3.56	4.35	5.70	0.22 (米ドル/kg)	31.0%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注1：年度は9月～翌8月。

注2：1エーカーは約0.4047ヘクタール。

(調査情報部 塩原 百合子)

大豆

2021/22年度世界の大豆生産量、前年度比6.2%増を予測

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2021年5月12日、「Oilseeds: World Markets and Trade」で2021/22年度の世界の大豆需給予測値を、また、米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は同日、2021/22年度（9月～翌8月）の世界の大豆需給見通しとして第1回目の予測を公表した。

これによると、2021/22年度の世界の大豆生産量は、国際価格が高水準であることから前年度比6.2%増の3億8553万トンと2年連続で増加し記録的な水準になると見込まれている（表21）。最大の生産国であるブラジルは、輸出需要が堅調であることや米ドルに対するレアル安による生産者の利益増加の期待感から前年度に続き作付面積が拡大し、生産量は過去最大となる同5.9%増の1億4400万トンと見込まれている。これに次ぐ米国は、作付面積が2018年以来最大となり、さらに単収が増加することで、生産量は同6.5%増の1億1988万トンと見込まれている。また、アルゼンチンは、天候の回復と作付面積の増加により同10.6%増の5200万トンと前年度をかなりの程度上回ると見込まれている。

輸出量は、同0.9%増の1億7290万トンと前年度をわずかに上回ると見込まれている。最大の輸出国であるブラジルは、生産量の増加を背景に同8.1%増の9300万トンと見込まれている。一方、米国は、前年度からの繰越在庫量が少ないことや国内需要が強い

ことから同9.0%減の5647万トンと前年度をかなりの程度下回ると見込まれている。この結果、国別輸出比率は、米国が2020/21年度から3.5ポイント減の32.7%に減少する一方、ブラジルが同3.6ポイント増の53.8%に増加すると見込まれている。輸入量は、最大の輸入国である中国が、アフリカ豚熱からの豚飼養頭数の回復により同3.0%増の1億300万トンと2020/21年度に続き増加し、世界全体の約6割を占めると見込まれている。

消費量（搾油仕向け）は、同2.9%増の3億3169万トンと見込まれている。最大の消費国である中国は、豚飼養頭数の回復により同4.2%増の1億トンとやや増加すると見込まれている。また、米国は、引き続きバイオディーゼル向けなど国内需要が増加することから、同1.6%増の6056万トンと見込まれている。

期末在庫量は、生産量の増加などにより同5.3%増の9110万トンと低水準となった前年度よりやや回復すると見込まれている。中国は、同6.9%増の3400万トンと3年連続で増加し、国別の在庫比率では前年度から0.6ポイント増の37.3%に上昇すると見込まれている。一方、前年度の期末在庫が低水準となった米国は、同17.4%増の381万トンと大幅に増加するものの、依然として2013/14年度以来の低水準にとどまると見込まれている。

（調査情報部 井田 俊二）

表 21 主要国の大豆需給見通し (2021年 5月12日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

国名	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度	
			(5月予測)	前年度比 (増減率)
米国				
生産量	96.67	112.55	119.88	6.5%
輸入量	0.42	0.95	0.95	0.0%
消費量	58.91	59.60	60.56	1.6%
輸出量	45.78	62.05	56.47	▲9.0%
期末在庫	14.28	3.25	3.81	17.4%
ブラジル				
生産量	128.50	136.00	144.00	5.9%
輸入量	0.55	0.70	0.65	▲7.1%
消費量	46.00	46.75	47.70	2.0%
輸出量	92.14	86.00	93.00	8.1%
期末在庫	20.74	22.04	23.34	5.9%
アルゼンチン				
生産量	48.80	47.00	52.00	10.6%
輸入量	4.88	4.70	4.70	0.0%
消費量	38.77	41.50	42.50	2.4%
輸出量	10.00	6.35	6.35	0.0%
期末在庫	26.70	23.35	23.85	2.1%
中国				
生産量	18.10	19.60	19.00	▲3.1%
輸入量	98.53	100.00	103.00	3.0%
消費量	91.50	96.00	100.00	4.2%
輸出量	0.09	0.10	0.10	0.0%
期末在庫	26.80	31.80	34.00	6.9%
世界計				
生産量	339.42	362.95	385.53	6.2%
輸入量	165.02	167.77	172.71	2.9%
消費量	311.50	322.40	331.69	2.9%
輸出量	165.14	171.36	172.90	0.9%
期末在庫	96.52	86.55	91.10	5.3%

資料：USDA

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。